

平成26年度第1回理事会、平成26年度定時評議員会議決

# 平成25年度 事業報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益財団法人 仏教伝道協会

# 公益財団法人仏教伝道協会

## 平成25年度事業報告書

平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日）は、仏教伝道協会が公益法人へと移行した初年度にあたり、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

ついては、定款に定める事業に沿って「平成25年度事業報告」を致します。

平成25年4月1日より平成26年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

### 1. 公益目的事業報告

#### 1. 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

##### (1) 「仏教聖典」各国語訳とその出版に関する事項

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語となった。また聖典を現代に即した内容にするため、平成25年度はヒンディー語を改訂した。引き続き、シンハラ語等の改訂を進めている。

##### (2) 「仏教聖典」の普及に関する事項

①「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動は、国内のホテル10軒、海外のホテル376軒より新規申し込みを受け、補充とあわせて平成25年度の寄贈冊数は、国内約16,200冊、海外約45,000冊であった。ホテル累計寄贈数は国内外あわせて64の国と地域約13,300軒・3,670,000冊に至った。

②平成24年度より開始した教育機関等への普及版仏教聖典無償配布は、さらにその活動を進め、平成25年度は、全国の仏教系大学・高校89校、保育施設504園を中心に、約125,000冊を寄贈し、累計で172,000冊に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として約9,000冊販売した。また『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』を全国の有名観光寺院、ミュージアム、学校等に約142,000冊（日本語版111,000冊、英語版31,000冊）寄贈した。

##### (3) 「大蔵経」の英訳編集とその刊行に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を進めている。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国仏教伝道協会に設置の英訳大蔵経出版委員会との協

カ体制のもと、第1期分139典籍のうち 翻訳を完了した87典籍を受領、内 74典籍を47巻の「英訳大蔵経」として出版している。残り52典籍は翻訳進行中である。平成25年度は『天台・法華経論集』、『中阿含経①』『大般涅槃経①』の3巻を刊行した。

また、インターネットで検索可能なデジタルデータとして、大正新脩大蔵経テキストデータベース（通称：SAT）との連携で英訳大蔵経 18典籍をSAT上にて対訳公開し、平成25年度は世界中の誰もがどこからでも閲覧できるよう仏教伝道協会のホームページ上でもPDFデータを公開した。

#### (4) その他仏教書籍の出版、頒布に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へカレンダー・仏教書籍を制作、頒布している。

平成25年度は、一日一訓カレンダー「八正道シリーズ」2冊目の「正思惟」を刊行し、170,000部を頒布した。併せてカレンダー解説書—みちしるべ『正しい考え方—正思惟—』（執筆者 山崎龍明 武蔵野大学教授）を教化教材として刊行し、87,000冊を全国の寺院に頒布した。

その他、昨年(株)学研とタイアップして製作し、全国の小学校図書館等に寄贈した『仏教のひみつ』を、さらに全国約5,000軒の児童館に寄贈した。また、新たに普及版の装丁にて『仏教のひみつ』普及版を刊行し、青少年用教材として寺院を中心に約129,000冊頒布した。

## 2. 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

### (1) 外国人留学生奨学金制度に関する事項

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を広く伝えて戴きたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

平成25年度は、平成25年2月13日に開催された外国人留学生奨学金審査委員会の決定に基づき、Matthew McMullen氏（マクマレン・マシュー、アメリカ国籍、早稲田大学研究員）、Osvaldo Mercuri氏（メルクーリ・オズワルド、イタリア国籍、花園大学研究員）、Phuong Quoc Tran氏（トラン・クォック・フォン、ベトナム国籍、愛知学院大学大学院研究員）の3名に支給した。

### (2) 日本人留学生奨学金制度に関する事項

日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して、日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

平成25年度は、平成24年12月20日に開催された日本人留学生奨学金審査委員会の決定に基づき、松原正樹氏（スタンフォード大学研究員）、井内真帆氏（ハーバード大学研究員）、生野昌範氏（ミュンヘン大学研究員）の3名に支給した。

### (3) 仏教伝道文化賞の贈呈に関する事項

国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を

願い、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

平成25年度は、平成25年7月24日に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、「仏教伝道文化賞受賞者」を一般財団法人多山報恩会殿に、「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を長倉伯博氏に贈ることを決定し、平成25年10月2日、仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金、記念品を贈り表彰した。

各受賞者の受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞

受賞者：一般財団法人多山報恩会 殿

受賞理由：長年にわたり多くの福祉事業や社会事業の充実、発展に寄与し  
広島赤十字原爆病院で仏教講演会を続ける。

仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

受賞者：長倉伯博 氏

受賞理由：地元の鹿児島を拠点として、終末期医療の現場で患者に寄り添い対話し、仏縁を結ぶビハーラ活動を地道に広げる。

#### (4) その他の助成に関する事項

##### ①他団体等への助成

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。

平成25年度は、平成25年2月20日と平成25年11月1日に開催された助成金審査委員会の決定に基づき以下の法人・団体に対して、国内1,280万円、海外300万円、238,000ドル、700,000ユーロの助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内〉

公益財団法人 全国教誨師連盟

東京親鸞会

日本印度学仏教学会

南無の会

公益財団法人 中村元東方研究所

全日本仏教青年会

公益財団法人 国際仏教興隆協会

ミャンマー・ビルマご遺骨帰国運動

一般社団法人 お寺の未来

特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会

身延山学園 身延山大学

公益財団法人 公益法人協会

心の相談室

宗教法人少林寺 気仙沼第二保育園

〈海外〉

米国仏教大学院（沼田恵範教授基金設立事業）

米国仏教大学院（『Pacific World』刊行事業）

カリフォルニア大学バークレー校(Toshihide Numata Book Prize in Buddhism)

カリフォルニア大学バークレー校（沼田仏教講座活動助成）

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 仏教学センター

シカゴ大学神学部

ハワイ大学宗教学部

ハンブルク大学仏教学

オークランド禅センター 好人庵 禅堂

ハンブルク大学（「沼田日本仏教講座専任教授」設立プロジェクト）

なお、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院への助成は平成25年度に決定しており、平成26年9月頃送金予定。

## ②BDK復興支援学生ボランティア活動

東日本大震災における被災地の復興支援として、平成23年度は「BDK復興支援団体助成金」、平成24年度は「BDK被災保育施設支援金」の助成を実施してきた。

平成25年度は、今後を担う若い世代に被災地の現状を認識し、復興支援の思いを新たにしてもらいたいという願いから、主に仏教精神を建学の精神や教育目的に掲げる大学で学ぶ学生に直接被災地へ赴き、ボランティア活動や当協会主催の復興支援コンサート、被災地寺院訪問等を通して仏教精神を体得してもらうプログラムとして「BDK復興支援学生ボランティア活動」を企画。

参加者募集の結果、中国やタイからの留学生を含む学生34名の参加者が集い、一般社団法人気仙沼復興協会のご指導、ご協力のもと、平成25年9月4日から9月7日まで、宮城県気仙沼市を中心に3泊4日の活動を実施した。

3泊4日のプログラム中、岩手県陸前高田市や気仙沼市の被災状況の視察や、実際に被災された臨済宗妙心寺派地福寺（気仙沼市、片山秀光住職）を会場とした無料の復興支援コンサートの開催、海岸清掃や慰霊碑周辺の花壇作りなどのボランティア活動の実施、また、震災当時、避難所として多くの方がたを受け入れた曹洞宗興福寺 須田玄峰住職（気仙沼市）や「カフェ・デ・モンク（傾聴移動喫茶）」の活動をされている曹洞宗金田諦應師（宮城県栗原市、通大寺住職）にそれぞれ震災当時の状況や傾聴ボランティアについてお話を伺った。

学生たちは毎夜班別ミーティングを行い、それぞれが感じ取ったこと、学んだことを話し合い、復興支援への思いを深くした。

本プログラム終了後、今回のボランティア活動を通して学生たちが経験したことを共有し、広く伝えてほしいという願いのもと、活動報告として参加学生がそれぞれの地域ごとにグループを作り、写真展示会を開催することとなり、京都・仁和寺、筑紫女学園大学、九州大谷短期大学、岐阜聖徳学園大学、聖和学園短期大学で実施された。

### 3. 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

#### (1) 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

##### ① 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語に学ぶ会」を開催している。ケネス田中教授（武蔵野大学）を講師として招き、日本語と英語を交えた講座として、毎月1回午後6時半より午後8時まで開講。平成25年度は、前期（4月～7月）と後期（9月～3月）に分け、前期のテーマは前年度後期に引き続き「日本仏教宗派」とした。後期のテーマは「世界の仏教」とし、当協会で作成したTV説法のDVD（当協会英語版ホームページから閲覧可能）を教材とし新しいスタイルで講座を開講。講座参加者数は、259名であった。

##### ② 仏教聖典を生活に活かす会

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として不特定多数の一般の方を対象にホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。平成25年度はご講師に一島正真師、ケネス田中師を招き、12回開催し、のべ274名の参加があった。

##### ③ 仏教聖典を経営に活かす会

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や社会人を対象に案内状や当財団のホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。平成25年度はご講師に木村清孝師、逸見道郎師を招き、8月を除く11回開催し、のべ251名の参加があった。また8月は夏季研修会として8月10日に神奈川県横須賀市、浄土真宗本願寺派浄土寺を訪ね、逸見道郎御住職のご法話を拝聴、さらに、ゆかりのある三浦按針の資料を見ながら、参加者30名は研鑽を積むとともに親睦を深めた。

##### ④ 三田落語会

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。平成25年度は4月、6月、8月、10月、12月、2月の計6回開催し、のべ約1,800名の来場者があり、好評を得ている。

##### ⑤ 実践布教研究会

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

平成25年度は、平成25年5月29日から5月31日の2泊3日間、「布教伝道」をテーマに伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道 ～日蓮聖人に学ぶ

～」をテーマに掲げ、タイ国からの僧侶2名を含む、全国より宗派を越えて60名の僧侶が参集。日蓮宗総本山身延山久遠寺を会場に第43回実践布教研究会を開催した。身延山久遠寺 布教部長 吉村明悦先生「日蓮宗のこころ」、身延山大学学長 浜島典彦先生「法華経のこころ」、本山海長寺 貫首 菅野日彰先生「布教伝道三大誓願に学ぶ」としてそれぞれ講話をいただき、日蓮宗法主 内野日總猊下より参加者に向け御言葉を頂戴した。また水行や菅野日彰先生のご指導のもと唱題行を体験した。分科会では「日本仏教の未来 ～30年後果たして日本仏教(伝統教団)は残っているだろうか～」をテーマに行われ、参加者同士の活発な意見交換があり、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

#### ⑥忙しい女性のための坐禅会

女性参加希望者を対象に安心して頭と心の整理をして頂くことを目的とし、平成25年4月より8月と10月を除く月1回、講師に阿 純章師(天台宗圓融寺副住職)を迎え、「忙しい女性のための坐禅会」を開催。社会で女性が活躍する場が増える一方で、様々なストレスで苦しむ女性が多いという現実の問題解決に努めた。参加者から、女性同士だから共感できることも多く、この坐禅会での交流が日々の生活でも大きな支えとなったという声を聞いた。1年を通して、125名の参加があった。

#### ⑦BDKシンポジウムの開催

一般の方がたにより仏教文化、仏教精神の素晴らしさを広く知っていただく機会を提供すると同時に日本仏教各宗派の仏教伝道の一助となるようなシンポジウムを企画。

平成25年度は年間テーマを「日本仏教とは」とし、3回のシンポジウムを実施。第1回目は、4月11日に当協会の公益財団法人移行記念に合わせて、養老孟司氏を講師に招き、記念講演会「日本仏教精神の再興－信仰と寺院の役割－」を開催。

縁起の法則や空の思想に代表される仏教的な価値観・思考方法が、現代を生き抜く鍵になることが示された。続く第2回目は、9月19日にシンポジウム「ここがスゴイよ 日本人の仏教観」を開催。このシンポジウムでは、特に「信仰」という点に着目し、日本で活躍する3名の外国人僧侶、アルボムッレ・スマナサーラ長老(日本テラワダ仏教協会)、ネルケ・無方師(曹洞宗)、ケネス・タナカ師(浄土真宗)をパネリストとして招待し、日本人の仏教観・宗教観の素晴らしさについて議論。平成26年2月21日開催の第3回目のシンポジウムでは、「寺院の役割」という点に着目し、『がんばれ仏教』や『「生きる力」としての仏教』等の著書の中で「お寺ルネッサンス」という言葉で日本仏教寺院の潜在性を主張する上田紀行氏(東京工業大学教授)を講師として迎え、テーマを「日本仏教寺院の役割と可能性」とし、今後の日本仏教寺院の役割とその可能性について議論。各シンポジウムの定員は100名だったが、毎回120名を超える出席者からは「今後もシンポジウムを続けて欲しい」との声が多く寄せられた。全シンポジウムの動画を本協会ホームページで公開している。

## (2) 仏教音楽の現代化とその普及に関する事項

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神

とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤の確立を目指し、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

平成25年度は、平成26年3月12日(水)に浄土真宗本願寺派 築地本願寺本堂において、東日本大震災復興支援の一助とすべく、「第16回仏教音楽祭 ブッダスペル チャリティ・コンサート ～Light of hope 希望の光～」を開催した。

第1部は佛教讃歌の集「楽友会」による、仏教伝道協会が過去に募集した佛教讃歌を交えての合唱とパイプオルガンの演奏、さらに「沢村まみとJPSA」による「君は1人じゃない(第14回仏教音楽祭第1位受賞曲)」などが披露され、第2部では、Kiroroのコンサートを行った。また被災地より岩手県立大槌高等学校吹奏楽部の生徒を招待した。当日は700人を越える来場者を得て、チケット代収入及び当日の募金分100万円を「いわての学び希望基金」へ義捐金としてお贈りした。

### (3) 機関誌の発行、ホームページでの広報等に関する事項

仏教伝道協会の事業を広く知っていただくために必要なツールとして、公益法人移行に際し、協会概要紹介冊子「あゆみ(和文・英文)」を刷新、協会の近況を報告する「心のかげはしカード」や前年度の活動をまとめた「ニュースレター道(2013.No.2)」を刊行した。また、一般向けの経済誌である『週刊東洋経済(2013年10月12日号)』に「現代のビジネスパーソンにとって仏教とは？」という特集記事を掲載、その抜き刷り冊子を作成し、広報活動に活用した。その他、中外日報紙、仏教タイムス紙にそれぞれ公益財団法人移行特集記事を掲載、ホームページでBDKシンポジウムの動画配信等を行うなど、広報に努めた。

## 4. 施設の貸与事業

### 公益目的事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、かつ当財団が公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常(一般)価格の半額で貸出し、当財団以外の団体等も含めた多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献することを目的に、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。

平成25年度の会議室の公益目的利用実績(公益財団、公益社団等の使用)は139件であった。



## II. 収益事業報告

### 1. 収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を行っている。

平成25年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は226件であった。

### 2. 旧石堂ビル跡地の時間貸し駐車場としての再利用について

当仏教伝道センタービルと隣接する旧石堂ビル跡地を時間貸し駐車場として再利用する計画について、平成25年度第1回理事会において承認可決された通り、三井不動産リアルティ株式会社（時間貸し駐車場名称：三井のリパーク）と平成25年7月に駐車場用地賃貸借契約（当初契約期間3年）を締結した。

以 上